

1. 平成30年7月～9月期の景気動向

今期のDI平均値は△32.2ポイントで、前期4～6月期の△31.8ポイントから0.4ポイント減とほぼ横ばいとなった。

業種 項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		△ 33 (△ 19) 	△ 31 (△ 19) 	△ 35 (△ 31) 	△ 28 (△ 22) 	△ 11 (△ 11) 	0 (△ 22) 	△ 50 (△ 40) 	△ 36 (△ 35) 	△ 17 (△ 41) 	△ 23 (△ 23)
採算		△ 44 (△ 25) 	△ 44 (△ 38) 	△ 37 (△ 39) 	△ 30 (△ 27) 	△ 11 (△ 33) 	△ 11 (△ 33) 	△ 50 (△ 27) 	△ 42 (△ 34) 	△ 29 (△ 35) 	△ 41 (△ 32)
資金繰り		△ 12 (△ 14) 	△ 32 (△ 20) 	△ 32 (△ 30) 	△ 28 (△ 17) 	△ 11 (△ 22) 	△ 11 (△ 22) 	△ 23 (△ 16) 	△ 28 (△ 24) 	△ 31 (△ 23) 	△ 31 (△ 23)
業況		△ 32 (△ 25) 	△ 27 (△ 29) 	△ 29 (△ 38) 	△ 8 (△ 20) 	△ 22 (△ 45) 	△ 12 (△ 37) 	△ 46 (△ 28) 	△ 44 (△ 25) 	△ 32 (△ 23) 	△ 13 (△ 29)
経営上の 当面する 問題点	1位	官公需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		消費者ニーズの変化への対応		利用者ニーズの変化への対応	
	2位	民間需要の停滞		製品ニーズの変化への対応		仕入単価の上昇		需要の停滞		店舗施設の狭隘・老朽化	
	3位	従業員の確保難		従業員の確保難		新規参入企業の増加		購買力の他地域への流出		需要の停滞	
業種別 コメント		<p>今期状況について、業況DI値はマイナスとなった。新年度の官公庁等による発注が落ち着き、また、住宅投資の減少に加え、ハウスメーカーとの競合から今期はマイナスとなった。来季見通しについても業況は昨年並みの見込みである。</p>		<p>今期、来期とも業況DIは回復傾向となったが、原材料価格の高止まりにより依然に採算が合わない状況である。</p> <p>有効求人倍率は上昇を続けているが、売り手市場のため人材確保が難しい状況である。そのため、定年を控えている熟練従業員が退職した後の人員補充が今後の課題となっている。</p>		<p>今期は全体的に受注が順調に推移し、業況も回復傾向である。また、来期についても変動が少なく、全体的に景気観が感じられてきている。しかし、新規同業者との価格競争並びに仕入単価の上昇を懸念している事業所が多い。</p>		<p>今期状況について、業況DIは18ポイントマイナスとなるなど、各項目でマイナスとなった。今年は猛暑の影響による販売意欲の低下が少なからず影響した。更にインターネット利用者が増えた他、夏休み等の長期休暇に加茂市外で買物をする人が増加したことも要因のひとつである。</p>		<p>今期は売上高について24ポイントの回復となったが、業況については9ポイントのマイナスとなった。今年は猛暑と災害の影響から野菜等の仕入単価が上昇し、利益を圧迫している事業所が少なくなかった。来季見通しについても業況DIはプラスとなっており、年末商戦に対する期待感が表れている。</p>	



※当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

※()は前回調査時のD・I値